apomecynoides HAYASHI は最近，林匡夫博士により記載された種で現在，同属の北限種とされている。本種は原産地である奄美大島のみで得られていたようであるが，筆者は1973年，春期および夏期に沖縄本島を訪れた際，本種を採集しているので報告する。

1♂，沖縄本島与那覇岳，12. Ⅳ. 1973，酒井索理採集
1♂，　同　上，9. Ⅶ. 1973，同　上

1♂は枯枝（樹種不明），1♀はシマサルナシの古い枯づるのビーティングによる。

なお，奄美産の個体と比べても特に差異はないようである。

（〠177　練馬区関町1-125）

ニイタカハナカミキリの食樹について

秋葉　孝雄

ニイタカハナカミキリ *Anoplodera dissimilis*(FAIRMAIRE) の食樹がリュウキュウマツではないかという予想は以前からあったが，それに関する報告はまだないようである。筆者は，リュウキュウマツ *Pinus luchuensis* MAYR の立枯中から本種成虫を採集しているので報告する。

5♂♂4♀♀，奄美大島朝仁，11. Ⅳ. 1975

この立枯れは直径 10cm 程で比較的古いものであった。

（〠345　北葛飾郡杉戸町清地2-17-2）

3月下旬・トカラ列島宝島のカミキリ

内野　晃

私は1975年3月23〜28日，宝島に滞在したが，その間に得られたカミキリムシのリストを報告する。

1. ワモンサビカミキリ
   Pterolophia annulata (CHEVROLAT)
   1♂，24. Ⅲ. 1975：3♂♂1♀，27. Ⅲ. 1975
2. オビレカミキリ
   Euseboides matsudai GRESSITT
   4♂♂1♀，27. Ⅲ. 1975
3. オキナワサビカミキリ
   Diboma costata (MATSUSHITA)
   2♂♂1♀，27. Ⅲ. 1975
4. アヤモンチビカミキリ
   Sybra ordinata tokara HAYASHI
   1♂，24. Ⅲ. 1975：1♂，27. Ⅲ. 1975
5. オオシマウスアヤカミキリ
   Bumetopia japonica oshimana BREUNING
   1♀，26. Ⅲ. 1975

オキナワサビカミキリとオビレカミキリはトカラ列島初記録と思われる。タブ・クスノキ・ヤブニッケイの枯枝および枯れづるの beating で得た。

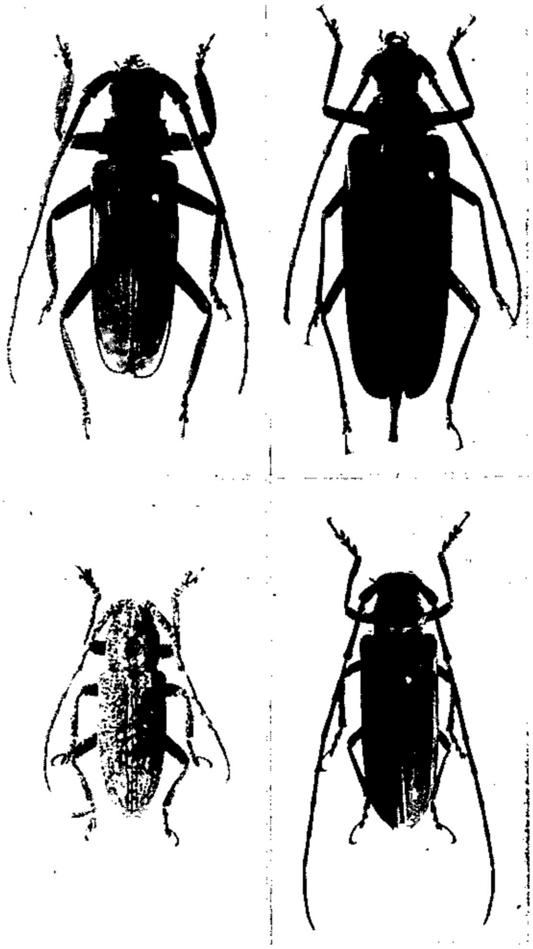
（〠812　福岡市東区箱崎3-13-9　松井輝久方）

西表島初記録のカミキリ4種

矢野　立志

沖縄県西表島にて，同島より未記録であったと思われるカミキリ4種を採集することができたので，ここに報告する。

1. イシガキトゲウスバカミキリ*
   Megopis (Spinimegopis) buckleyi ishigakiana YOSHINAGA et NAKAYAMA
   1♂，西表島白浜，4. Ⅴ. 1975
   白浜部落内の燈火（60W程度の白熱電球）に飛来したものを採集。採集時は気温24. 5°Cで，湿度はかなり高いように思われた。（写真左上）
2. フトヒゲウスバカミキリ
   Megopis sinica validicornis GRESSITT



1♀，西表島白浜，7. Ⅴ.1975
1♂，　同　上　，8. Ⅴ.1975
いずれも前種と同じ燈火で得た。（写真右上）

3. *Pterolophia* sp.
1ex.，西表島白浜，4. Ⅴ.1975
3exs.，同　　上，9. Ⅴ.1975

主に枯ススキのビーティングにより得られた。既に石垣島平久保に産することが知られているが，西表島からの記録はなかった。（写真左下）台湾に近縁な種が産する。

4. *Apriona* sp.
1♂，西表島白浜，8. Ⅴ.1975

白浜部落の街燈に来たものを得た。水沼哲郎氏により石垣島に産することが報告されて以来，同島バンナ岳における燈火で比較的採集されているようであるが，西表島からは未記録であった。西表島産の個体は石垣島のものと比較すると，上翅基部の顆粒が小さく少ない（50個以下），触角がやや長い，翅端内角のトゲが長い等の点で異なっている。（写真右下）

＊実は，栗林・高良・東（1973，沖縄の昆虫，学習研究社）に本種が西表島に分布するとされているが，これは出現時期などから考えても明らかにコゲチャトゲフチオオウスバカミキリ *Macrotoma* (*Bandar*) *fisheri obscuribrunnea* HAYASHI の誤同定によるものと思われ，今回の記録が西表島からの最初の正しい報告であろう。

（〒734　広島市皆実町1-18-40）

福島県桧枝岐で　ホソツヤヒゲナガコバネカミキリを採集

川田　一之

福島県桧枝岐で採集を行なった際，ホソツヤヒゲナガコバネカミキリ *Molorchus nitidus* OBIKA を採集した。

本種は既に東日本からは新潟県姫川谷・埼玉県秩父・東京都奥多摩・長野県伊那戸台の4ヶ所で記録されているが，同県下における採集例はまだ聞かないので報告しておきたい。

1♀，福島県南会津郡桧枝岐村，9. Ⅵ.1975，
川田一之採集

日当たりのよい，よくカミキリムシの集まっているミズキの花上で得た。なお，桧枝岐といってもかなり内川方面（伊南方面）へ寄ったところであった。

（〒164　中野区東中野5-20-13）

トカラ列島諏訪瀬島・悪石島　のカミキリについて

藤田　　宏

交通の不便なため，従来採集者のほとんど訪れなかったトカラ列島中，近年中之島においては比較的訪れる者も多く，そのカミキリ相もまとめられつつあるが，他の島における報告はまだきわめて少ない。筆者は同列島諏訪瀬島および悪石島において今西修氏が採集されたカミキリを所持しているので以下，当然分布が予想される種がほとんどであるが参考資料としてここに記録しておきたい。

1. チャイロヒメカミキリ
Ceresium simile GAHAN
1♂，諏訪瀬島，2. Ⅷ. 1973：1♂5♀♀，悪石島，5. Ⅷ.1973

2. ヨコヤマヒメカミキリ
Ceresium holophaeum BATES
3♂♂2♀♀，悪石島，5. Ⅷ.1973

3. コウノゴマフカミキリ
Mesosa (*Mesosa*) *konoi* HAYASHI
1♂2♀♀，悪石島，
5. Ⅷ.1973



本種は同列島（中之島・口之島）の他，奄美大島・沖永良部島・沖縄本島に分布するが，産地によって上翅斑紋の変化が著しく，それぞれ別亜種として分類され，同列島のものはその原亜種とされている。

今回，悪石島で採集された個体は写真の示すように中之島産のものとは若干上翅の斑紋が異なる。すなわち中之島（原産地）のものが上翅中央の白帯が強く，その前後の黒い部分（焦げ茶色の微毛が密布している）が多いことにより，一見してそれとわかる特徴を備えているのに対し，悪石島のものは白帯の部分が比較的不明瞭で，また黒い部分も少なく上翅の色彩的な区分は安定していない。トカラ列島の原亜種と沖縄亜種とは上翅斑紋がかなり安定しており，その中間地区では変化にとむとされているが，同一の列島内においても地理的に奄美大島・沖永良部島に近い分だけ，その斑紋も変化してくる（似てくる）ということは本種がいかに特化しやすい種であるかを示しているようで面白い。